

令和4年8月1日(月)
北九州市発達障害者支援地域協議会

報告① 発達障害児早期支援システム
研究・健診研究会報告 資料

令和3年度 発達障害児早期支援システム 研究事業・健診研究会 まとめ

北九州市 発達障害児早期支援システム研究・健診研究会
(事務局：北九州市保健福祉局精神保健・地域移行推進課)

研究会目的・令和3年度事業計画

▶ 研究会目的

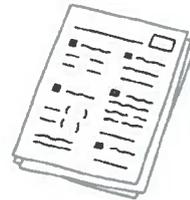
発達特性のある就学前の子どもの早期支援を進めるため、園医健診、かかりつけ医健診、特性評価（アセスメント）の三層構造による早期支援システムの構築に向けた研究事業。

令和2年8月に市内小児科医から構成される研究会を設置。

▶ 令和3年度事業計画

市内保育所（園）の年中児を対象とした

- ①SDQ（子どもの強さと困難さアンケート）の実施
- ②既存の仕組みにある「園医健診」の実施
- ③上記の結果から、支援が必要と思われる児への小児科医による健診実施
（健診名：2次健診）
- ④MSPA（エムスパ：発達障害の要支援度評価尺度）の実施



研究会委員構成

▶ 発達障害児早期支援システム研究事業・健診研究会委員（事務局：保健福祉局精神保健福祉課）

- あまもと小児科医院院長 天本 祐輔
- えびす子どもクリニック院長 戒 寛
- あだち古賀クリニック院長 古賀 一吉
- 嘉武医院副院長 原田 博子
- 産業医科大学サブユニットセンター
エコチル調査特任教授 下野 昌幸
- 独立行政法人国立病院機構
小倉医療センター小児科部長 渡辺 恭子
- ◎ 医療法人医和基会
戸畑総合病院小児科部長 梶原 康巨
- ◎ 北九州市発達障害者支援センターつばさ センター長以下3名

オブザーバー参加

3

SDQアンケート結果について

1 アンケート回収数（同意ある保護者及び保育者から回収）

保育所（園）	保護者	保育者	合計
保育所A	19	19	38
保育園B	15	15	30
保育園C	27	27	54
合計	61	61	122

2 アンケート結果

※総合的困難さ得点（40点満点）が16点以上を「支援の必要性が大いにある（HighNeed）」として抽出

保育所（園）	保護者/保育者	保護者のみ	保育者のみ
保育所A	2名	0名	4名
保育園B	1名	2名	3名
保育園C	1名	2名	8名
合計	4名	4名	15名

2次健診への案内（支援対象者の決定）

1 支援対象者の決定方針

- (1) 既に専門の機関へつながっている児を除き、**保護者の点数が16点以上の場合**について、2次健診へ案内する。
- (2) なお、保育者のみが16点以上の場合、2次健診へ案内はせず、発達障害者支援センターつばさで在籍園支援を行う。

2 2次健診への案内 **(合計 6名 全体の10%)** ※既に専門機関へつながっている児を除く

保育所（園）	保護者/保育者	保護者のみ
保育所A	2名	0名
保育園B	1名	1名
保育園C	0名	2名
合計	3名	3名

2次健診・MSPA実施状況（その1）

1 2次健診を案内した6名のうち、保護者の同意が得れた方 **3名（全体の5%）**

- (1) 2次健診受診及びMSPA実施 2名
- (2) MSPAのみ実施 1名

2 2次健診の実施方法

- (1) 2次健診を行う医師は、各保育所（園）の園医
- (2) 園医に対し、保護者説明時の状況を事務局から説明
(保護者が発言したこと、心配していること等)
- (3) 2次健診を保育所等で実施するか、園医の病院で行うかを確認
→2名とも保育所等で実施
- (4) 当日の流れの確認（保護者と児と面談）
 - ・SDQアンケートの結果を保護者と振り返る（保護者の悩みなどを再確認）
 - ・適宜、保護者へアドバイス等行う
 - ・MSPAを受けることについて説明（2名とも後日MSPA実施）



2次健診・MSPA実施状況（その2）

3 MSPAの実施方法

(1) 事前準備

- ・MSPAを行う前の事前アンケートについて、発達障害者支援センターつばさ職員により保護者へ説明、当日持参を依頼。
- ・保護者の了解が得られた場合、担当保育士へも同様の事前アンケートを依頼。

(2) 当日の流れ（保育所等で実施）

- ・発達障害者支援センターつばさと保護者で面談
（つばさは主・副2名で実施、1時間程度、児の同席あり）
- ・面談した情報、事前のアンケートをもとに、つばさ、事務局で点数化
（15分程度、複数名の協議で決定）
- ・結果をつばさから保護者へ説明、保護者の同意を得て、保育所の職員も同席
- ・児の特性の説明、周囲の対応ポイントの説明
- ・つばさと事務局で保護者の様子等情報共有、保育所（園）との情報共有



2次健診・MSPA実施状況（まとめ）



1 よかった点

(1) SDQアンケートを事前に実施することで、2次健診の場で保護者との共通の話題として活用することができた

- ・保護者の困っていること、悩んでいることを一つ一つ確認でき、必要に応じて医師としてアドバイスすることができた。

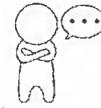
(2) 実施場所は、保育所（園）としたが、保護者や児にとっては慣れた場所で安心できる場であったと思われる。

- ・保育所（園）側との連携はとりやすかったが、場所の確保で保育所に負担をかけた。

(3) MSPAは、面談者2名のみならず、事務局も加わり複数名で点数化の作業を行った。複数名での協議体で検討することで、より公正・公平な結果を導き出せた。

- ・保護者の拘束時間が長くなってしまふ点がある。

2次健診・MSPA実施状況（まとめ）



2 課題

（1）2次健診やMSPAを行う意味を、保護者に理解してもらうことの難しさ

（2次健診対象となったにもかかわらず、2次健診に繋がらなかったケース）

- ・ 1名の保護者は、過去の健診で発達の遅れの指摘、わいわい子育て相談を経験していたことから、健診は希望せず（同じようなことを言われるものと受け止め）、児の特性は知りたいと希望され、MSPAのみ実施となった。
- ・ 保育所（園）で以前から専門機関へつないだほうがよい、と考えていた児の場合、保護者、保育者のSDQの点数が共に20点以上あったため、両親に2次健診及びMSPAを受けることをわかりやすく、複数回説明した。しかし、保護者自身が児の状況を問題視しておらず、2次健診、MSPAともに結びつくことができなかった。

（2）2次健診でできることは限られており、今回は事前に行っていたSDQアンケートが、保護者との会話のきっかけとなった。2次健診でどこまで確認し、何を示唆していくのか、今回の実施方法でよかったのか、幅広に協議が必要。

- ・ 小枝達也医師が実践している「5歳児健診」を実施できればよいとの意見あり。

終わりに（課題）

～保育者のみ点数が高い場合の支援策～



1 保護者が困っていない場合の対応

今回、保護者の点数が16点以上の場合、2次健診へ案内した（6名）。そのため、保育者のみが16点以上の場合（専門機関へつながっている児を除き14名）については、在籍園において対応に苦慮していると考えられ、在籍園からの相談等に発達障害者支援センターつばさが対応することとした。

2 今後の課題

- （1）今後、対象園が拡大した場合のフォロー体制をどうするか、つばさだけではマンパワーが不足すると考えられる。
- （2）保護者にいかに、児の状況を理解してもらうか、保護者の気づきを促すための対応をどうするか。
- （3）専門機関につなぐまでもなく、日々の生活の中で発達を促すための対応の工夫などを、保護者や保育者が学んだり、相談できる環境づくりは必要である。そのため相談先等の情報の整理を行う必要がある。

「子どもの強さと困難さアンケート」

以下のそれぞれの質問項目について、あてはまらない、まああてはまる、あてはまる、のいずれかのボックスにチェックをつけてください(例:)。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください。

整理番号	担任等から伝えられた7桁の数字	1
お子さんのお名前	姓	名

お子さんの誕生日	平成	令和	西暦	年	月	日
	□	□	□			

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
他人の気持ちをよく気づかう	□	□	□
おちつきがなく、長い間じっとしてられない	□	□	□
頭がいたい、お腹がいたい、気持ちが悪いなどと、よくうったえる	□	□	□
他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）	□	□	□
カッとなったり、かんしゃくをおこしたりする事がよくある	□	□	□
一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い	□	□	□
素直で、だいたい大人のことをよくきく	□	□	□
心配ごとが多く、いつも不安なようだ	□	□	□
誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける	□	□	□
いつもそわそわしたり、もじもじしている	□	□	□
仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	□	□	□
よく他の子とけんかをしたり、いじめたりする	□	□	□
おちこんでしずんでいたり、涙ぐんでいたりすることがよくある	□	□	□
他の子どもたちから、だいたい好かれているようだ	□	□	□
すぐに気が散りやすく、注意を集中できない	□	□	□
目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす	□	□	□
年下の子どもたちに対してやさしい	□	□	□
よくうそをついたり、ごまかしたりする	□	□	□
他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする	□	□	□
自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）	□	□	□
よく考えてから行動する	□	□	□
家や学校、その他から物を盗んだりする	□	□	□
他の子どもたちより、大人という方がうまくいくようだ	□	□	□
こわがりで、すぐにおびえたりする	□	□	□
ものごとを最後までやりとげ、集中力もある	□	□	□

MSPA特性チャート

氏名	年	月	日
評定者氏名			
実施施設名			

評定対象者の利益につながるが目的での使用に限り、特性チャートのみコピー可 ただし以下の情報を明記すること

特性チャートの複製責任者	
複製の提出先	

得意分野・特技とその程度

特記事項

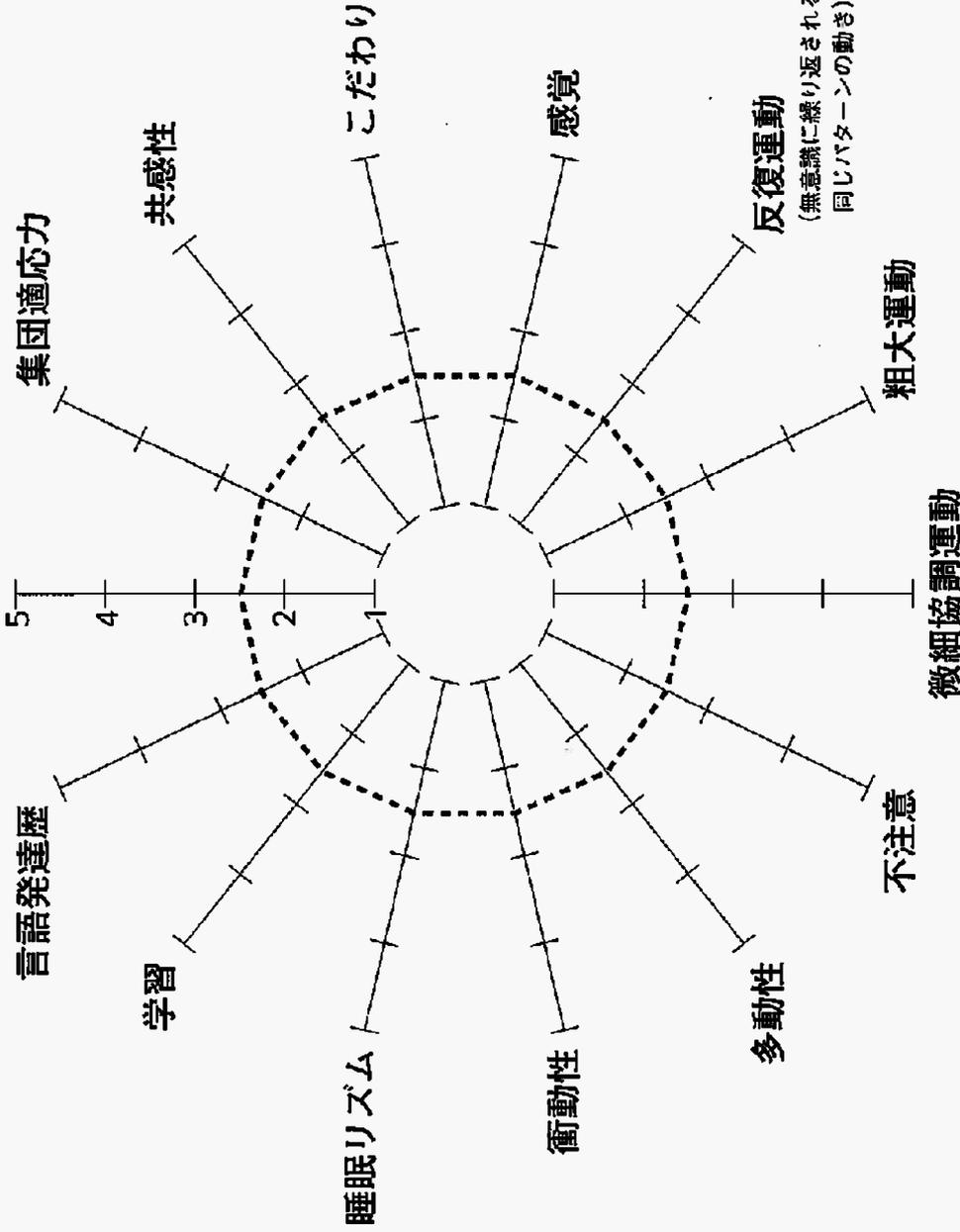
著者 船曳 康子 (京都大学大学院 人間・環境学研究所)
 発行所 京都国際社会福祉センター

要文・要旨

1	2	3	4	5
気になる点はない	多少気になる点はあるが通常の生活環境において困らない	本人の工夫や、周囲の一定の配慮(上司、担任など責任ある立場の人が把握し配慮する程度)で集団生活に適応	大幅な個別の配慮で集団生活に適応(上司、担任、同僚などの十分な理解や的確な配慮による支援がなければ困難)	集団の流れに入るより個人単位の支援が優先され、日常生活自体に特別な支援が必要となる

点線外がサポートの参考ラインです

コミュニケーション



言語発達歴

学習

睡眠リズム

衝動性

多動性

不注意

微細協調運動

粗大運動

反復運動

(無意識に繰り返される同じパターンの動き)

感覚

こだわり

共感性

集団適応力